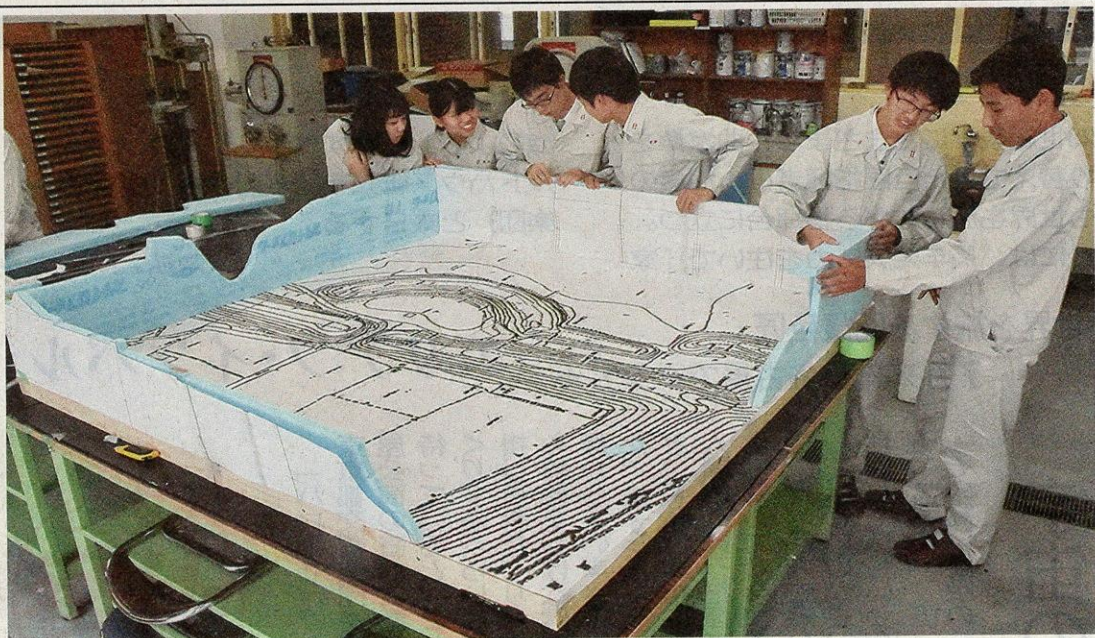


島田工業高等学校建築科ジオラマ模型作成状況

(中日新聞県内: 令和元年6月27日(木))

(第3種郵便物認可)

諏訪原城の模型を制作する生徒ら。島田市阿知ヶ谷で



諏訪原城の模型制作へ

島田工高生市の依頼に一役

島田市阿知ヶ谷の県立島田工業高校建築科三年生九人が、課題研究の一環で、同市菊川にある国史跡・諏訪原城跡の復元模型を制作している。完成後は、城跡のビジターセンターに展示する。

一五七三年に武田氏の武将、馬場信春が築いたとされる戦国時代の山城。三日月状に掘った防御拠点「丸馬出し」などの武田流築城術で知られる。城の特徴が

より伝わるようにと、市がビジターセンターに模型展

示を企画。旧日本海軍牛尾実験所などの復元模型の実績がある建築科に、制作を依頼した。

模型は三十五分の一ほどのサイズで、幅、奥行きとも一・八メートル。生徒たちは現地を見学し、市の担当者から説明を聞いて城の構造を学んだ。建築用の発泡断熱材を使って、複雑な地形の再現を進めている。今後、ミニチュアの兵隊や門、塀なども設置する。

十一月の文化祭までに完成させ、来年二月に市に寄贈する。中心メンバーの荒井太基さん(もと渡辺考史さん)もは「細部にこだわりの丁寧な作って城の特徴が伝わるようにしたい。ずっと展示される作品になればうれしい」と話す。

(古池康司)

